

〔様式 1 4〕

(対象事業名：子どもの教育支援、文化事業に従事する組織の参画促進、  
ミュージアムをサポートするボランティアの育成に関わる事業)

事業名：秋田県立近代美術館名品展（移動展）

事業者名：秋田県立近代美術館 館長 河野元昭

連携事業館名：能代市文化会館



住所：秋田県横手市赤坂字富ヶ沢62-46

T E L : 0182-33-8855

F A X : 0182-33-8858

H P アドレス：[http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public\\_html](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public_html)

#### ①施設概要

秋田県立近代美術館は、平成6年に秋田県が横手市に設置し、年10数回の展覧会や美術館教室を実施してきた。能代市文化会館は、能代市が昭和55年に設置し、舞台芸術の公開を主とした大ホール、展覧会等を開催できる中ホールを備え、美術品等の展覧会を開催してきている。

#### ②事業の意図目的

この事業は秋田県南部に位置する当館の利用が、遠隔地で極めて難しい県北部の地域住民の強い要請に応じて実施するもので、鑑賞の機会を提供により、子どもの教育の支援、文化事業に係わる行政機関の参画促進、地域のボランティア組織の育成をはかるものである。

#### ③事業概要

本事業は、能代市の能代市文化会館を会場に、秋田県立近代美術館の所蔵品の中から県北ゆかりの作家を中心に、30名の作家による全43点の作品を紹介する名品展（移動展）である。この事業では、多くの地域住民や児童生徒は美術鑑賞の好機に恵まれ、展覧会の監視案内や受付等を通して美術ボランティアの育成が図られ、地域の行政機関は、広報や開催期間の作品管理等で積極的に事業に参画している。

#### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（ポスター、リーフレット）

作成した報告書等

ビデオ（ ）

冊子（ ）

その他（作品目録、鑑賞シート）

#### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 4, 1 2 1 人

内 訳 一般、児童生徒

## 秋田県立近代美術館名品展 開催要項

《展覧会名》 秋田県立近代美術館名品展 ―きて、みて、美術館！！―

### 《開催趣旨》

秋田県立近代美術館では、広く県民の方々に当館のコレクションをご覧いただくため、平成13年度大館郷土博物館での第1回展を皮切りに、会場を移動して名品展を開催しております。今回で第8回となる本展覧会も、能代市では平成14年度の開催以来3回目の開催となります。

このたびの名品展では能代・山本ゆかりの日本画家岡田琴湖、桜庭藤二郎、信太金昌や洋画家金子義徳らにスポットをあてご覧いただくほか、これまでどおり近現代の日本美術界を代表する平福百穂、寺崎廣業、横山大観などの作品をお楽しみいただきます。また、秋田の風土を描いた勝平得之の版画や、多彩な表現による彫刻、工芸、書など、皆様のご期待にそえる30名の作家による全43点をご紹介します。

会場では、地元能代市を中心としたボランティアの方々が作品鑑賞のお手伝いをいたします。また、作品の鑑賞シートもご用意して多くの皆様のご来場をお待ちしております。秋田に根ざした当館のコレクションをご鑑賞いただき、「美との出会い」、「美との語らい」をお楽しみください。

《会 期》 平成19年10月14日（日）～21日（日）

\*会期中休館日はありません

《開催時間》 午前9：00～午後4：30

\*初日、10月14日（日）は開会式のため午前10：30の開場となります。

《会 場》 能代市文化会館

〒016-0842 秋田県能代市追分町4-26

TEL:0185-54-8141 FAX:0185-54-8145

《主 催》 秋田県 秋田県教育委員会 秋田県立近代美術館

《共 催》 能代市 能代市教育委員会 能代市文化会館

《観 覧 料》 無 料

《列品解説》 10月14日（日）午前10：30～12：00まで

会場／能代市文化会館

《展示作品》 平福百穂 寺崎廣業 横山大観等 30作家43作品（一覧は別紙参照）

《連 絡 先》 秋田県立近代美術館（担当 太田和夫、沼田 仁）

〒013-0064 秋田県横手市赤坂字富ヶ沢62-46

TEL:0182-33-8855 FAX:0186-33-8858



## （２）地域との連携

開催地の能代市教育委員会、能代市文化会館の協力を得、ボランティアの募集、地域の広報、集客、会場管理などがうまくできた。ボランティア募集においては、能代市発行の広報紙の掲載、市内の美術愛好者への連絡などで能代市教育委員会に協力で、13名ものボランティアの方が集まり、開催中の作品監視、案内はもとより、近隣への広報に活躍してくれた。

また、開会式においては、地元市長、教育長をはじめ地域の学校教育関係者が多く出席し、一般から児童生徒までに対する広報について大きな協力が得られた。

### <展示室風景>



### (3) 成果物について

- ・ポスター 広報用
- ・ちらし 広報用兼展示室用

### (3) 参加者

- 総入場者数 4, 121人
- <入場者アンケート結果>
- ・アンケート協力者数 277名
- ・性別 男性38% 女性62%
- ・年齢層 60代29% 70代25% 50代24%
- ・入場者居住地 能代市79%
- ・広報媒体 新聞55% 広報紙(市報等)13% ポスター10% テレビ3%

### (4) 参加者の反応

#### (展示方法)

- パネルが見やすく作品の展示位置も見やすかった。解説シートをみながら鑑賞すると一層わかりやすくて楽しかった。
- 近くで見られることは最高です。

#### (解説)

- 今日説明してくださった方、とてもわかりやすかった。
- 解説されるととてもよく理解できるので、今後もぜひお願いします。

#### (作家)

- 廣業、穂庵、百穂、藤二郎、大観、名品ばかりで久々に感動した。
- 地元出身の作家の作品があって良かった。

#### (展示内容)

- 作品それぞれに味わいがあった。
- ふだん見ることが少ない作品に触れて良かった。

#### (開催日程)

- 県北には毎年開催できるようにしてほしい。
- (移動展)継続してほしい。美術館のない能代にとってはありがたい企画だ。
- 絵画を鑑賞する機会がないため、今後とも移動展を続けてほしい。

#### (小中学生から)

- またきてみたいと思った。
- すばらしい作品の数々でした。
- きにいった「え」がみつかった。学校行事以外でも見にきたい。
- もう少し絵の数を増やしてほしい。
- 女の人の絵がとてもうまかった。

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

秋田県の能代・山本地域は美術館から遠隔地にあつて、美術鑑賞の機会を得ることが困難な地域であるが、こうした地域での美術展は、3回目の開催であつたにも拘わらず多くの方々に好意的に受けとられたようだ。

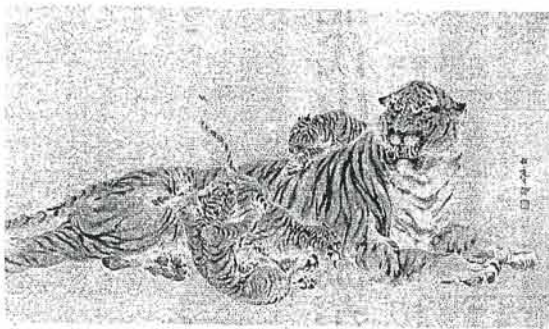
地域のボランティアの活動においては、前々回からの経験者が初心者への指導に当たったせいか、会場の受付、監視等は滞りなく行われ、さらにベテランのボランティアは入場者の案内や解説に積極的に携わるまでに至ってきている。こうしたことが、美術ボランティア育成の成果であるともいえる。

美術鑑賞の点で言えば、開催中のアンケートの設問「また名品展を開催した場合どうしますか」に対し、97パーセント(277人中)の人が「見に来たい」の回答であつた。この移動展が、概ね好評であることがうかがえる。美術鑑賞する機会がきわめて少ない地域でもあり、良質の美術展覧会の開催そのものが、美術愛好者にとっては歓迎されるものである。しかし、同地では、3回目の実施であつたこともあり、マスコミ、市の広報紙など宣伝においては、むしろ前回以上の手厚さであつたが、前々回、前回に比べ少ない入場者であつた。こうしたことを踏まえ、今後実施する場合は、開催自治体との連携はもとより、入場者のなかで特に少なかった児童生徒の集客を図るため、学校等教育機関との連携を更に密にし、開催会場についても、文化施設での開催に加え、学校を会場とした展覧会、いわば出張展覧会のような形を付加していくことを考えている。さらに、学校との連携のひとつとして、美術教諭と協議を重ねながら、昨年計画したが実現できないでいる児童生徒が楽しく鑑賞するための鑑賞プログラムを作成していくことを課題とした。

#### (6) 新聞記事等

北羽新報紙 平成19年10月6日、13日、25日 (コピー添付)





絹本墨画淡彩軸装 82.4×159.5 (1890年制作)

県立近代美術館 名品展

10月14日～21日 能代市文化会館で



1920年制作

菜圃

平福  
百穗



『法然上人』

平福 百穗

紙本墨画淡彩軸装・106×59  
(1922年制作)

『乳虎』

平福  
穗庵

来る10月14日から21日までの間、第2回の平成17年以来、3回目の「秋田県立近代美術館名品展」を能代市文化会館で開催します。このたびの展覧会は過去2回の展覧

ともにご紹介させていただきましよう。

一番にご紹介する作品は、平福穂庵（1844～1890）、旧角館町出身）の「乳虎図」です。

この日本画は横の長さが

て、一層現実のトウに見えてくるのではないでしようか。穂鷹が生きた時代には、ほかにほとんど見ることができなかった写實的で迫力ある虎の図を、明治時代も半ばには

文

文化

きて、みて、美術館!!

▲上▲

県立近代美術館名品展へのお誘い

会出品された作品の中に、43歳の美術作家で構成されています。代表作は、龍代市・山本都にゆかりのある日本画家増田隆一、二郎、信太金、そして洋画家大原省三、富岡豊久治、近代の美術界に活躍した秋田県出身の平福穂陽、盲徳子氏、寺崎廣美が中心になっています。さらに、早川、洋画のほかに版画、彫刻、工芸、書の作家も取り交ぜて展示しますので、ぜひ多くの皆さまにご覧いただきたく、ご案内いたします。

約160名もある大団  
でしかねばならない  
る年の明治23年に制作  
れたという記念的作品  
になっている。それ  
この翌始めのシヤム  
カを動物を好んで描  
ましながら、この上の  
子を捕に当たっては  
日英会館で開かれた  
な見物で生きたものを  
見せしむるに観察した  
いう逸話を残していま  
す。この話を真つてい  
のまに、絵の右下に  
は、ついでと書かれた  
る。柔らかな動物を  
描き、見事に描き分け  
られているのです。如  
て、毛筆が一本本

しかつた最晩年の「隠蓐」が持てる力を振りが鋭く描き上げたのをだ。

こうして動物を筆生に写実的に描くという、いいわけは稀における代性性種を、隠蓐は人生後半期での動物画の作品にみせられます。その精神空ののび感にみせかのように、惜いでも40余歳の短く、生涯を終えました。

さて、隠蓐の弟子奥蔵は親づりの恵まれた才能を東京美術学校でさらに磨上げ、百穂(1897~1983)とを輩て父をのびまでの画家となりました。今の展覧会には「法

然上人と「二葉園」なる名品を出す。この中にも代表的な「牡丹」百穂44時の一品である。程度比較的小さい葉面園には、松林のなかを歩かせる自然（浄土楽園、1833-1842）が、を何かに目を留めたたすという光景が描かれてはいます。画面の右には、柴の戸に明轉かゝる白雲と「一葉の雲々」など」と書かれていて、給主題をほのめかしています。法然自身、覺えない罪で流刑を受けたのですが、それを諷された（二）から、摂津

46年ぶりの秋田の国  
 体開催まで、あゝ数日を  
 残すばかりとなりました  
 た。全県各地に地域の  
 特色を發揮し、歓迎方端  
 々、胸をよぎったのかも  
 知れませんが、

国体成功に向け  
歓迎の心の結集を

佐々木 幸一

4年ぶりの秋田での国体開催まで、あと数日を残すばかりとなりました。全県各地では地域の特色を發揮して歓迎の端整な本番を迎えようとしておりました。

治道の国体の旗も「ようこそ秋田へ」「ようこそ能代へ」と歓迎のはたきも勢い付き、国体ムードも一気に盛り上がってきました。

当会、能代地区市民運動推進協議会は、市民の立場で協力を目的に昨年立ち上げました。環境美化、歓迎・応接活動の２事業について市民の理解と協力を得て推進活動をしてきました。

各自治会や老人クラブ、婦人会の協力を得て、沿道の自主的住民や団体の花壇が市内７施設でこぼれるほかに見

事に咲いています。開花期間中は心からの歓迎と想いの花となって咲き続けようと思えます。そして、きれいな街づくりのため早朝のクリンアップ作戦を主会場、駅周辺等五カ所で実施し、多くの市民の方々の参加をいただきました。

また、来能の選手、監督へのプレゼントとして本都館におきかたてママ

で作り上げたいと思います。その熱き応援は10月14日の秋田わか杉大会(障害者スポーツ大会)開会まで絶えずとなく続きたいと思います。

能代でアレーしてよかった、あの声援が励みの一球入魂と、素晴らしい思い出を残すことができればと思います。そのためにもしっかりと機会ですので、地域、仲間と誘い

か。とにかく、観る者の想像をかき立てて止まない作品なのです。

（県立近代美術館）

償の量が、いかに  
その市民の底力なり  
を体言の大きな事  
成り握るカギにも  
なるかと思います。

三本番何といつも  
照映全運賃はちん  
なな、応援勢り  
最大の歓迎にな  
ないでしょうか。バ  
ットボールのメカ  
負う能代での熱  
ポットの頂点に挑  
選手、監督、観客

志しよる案内マップおぼしきところを記載。不慣れた道に迷ひましても、手取りに免じて貰ふたければと思ひます。

以上活動の概略です

が、少しでも来能の方々が、もてなし心が伝わればと思っています

毎朝日でもくもくと空を泳ぐ、ごみ拾ひを全職員でやる、「私とかかかった」と自虐的なラリアリアを申し出るのは多きに頭が下がるといへます。有形無形の市の無

お、数日後に迫つた。体、きれいな鹿の面であつて、心かのもてなしと志願が次回健闘につながることを願ひました。また、24年からの豪雨災害により、わが国体成功に力強め、立向かう県民と共に有就感の共有、能代の招致の面へむかふことを希望致します。本書「向は第一層の理解」この方をお読みします。

(秋田わか杉国体開催地)市民運動推進協議会

文庫

うに迫る。  
(ちくま文庫・714円)

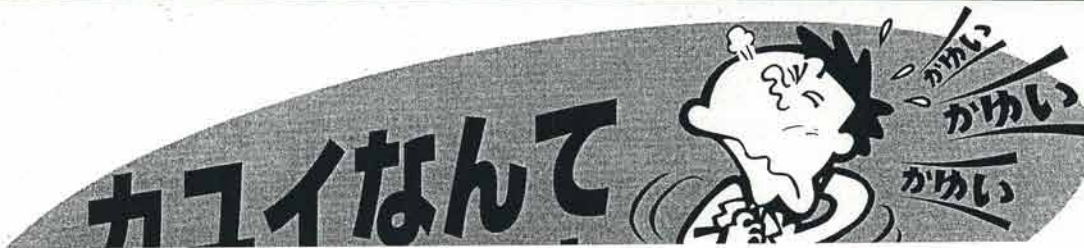
求め下さい

**かゆい皮膚病はおまかせ!**

## ヒフケス・アトピール

第七方量打

(特)



☆この医薬品は使用上の注意をよ



# 県立近代美術館 名品展

10月14日(土)21日 能代市文化会館で



キャンパス・油彩  
130.5×64.8  
(1952年制作)

## 紙上作品紹介



キャンパス・油彩 130.3×162.1  
(1988年制作)

### 『座像』

大原 省三

前回は、穂庵、百穂父子の作品を、見てきたが、今回は、能代市山本郡にゆかりがある作家の作品の中から、展示する作品は、「雪中十

## きて、みて、美術館!!

◀中▶

県立近代美術館名品展へのお誘い

## 文化

本画を、紹介しましう。

和田「運春」(北海)の大作を、紹介する。いずれの作品も、顔料(絵の具)が幾度となく塗り重ねられ、この画家特有の重厚な絵肌が見えてくる。

「運春」(1933-1994)は、山本郡三種町(旧金岡村)に生まれ、19歳の時上京、日本画を学び始めます。やがて、日本画家川端龍子に率いる「青龍社」に小坂町出身の日本画家福田豊四郎らが結成した「新美術人協会」などに出品し活躍しています。戦後は能代市に定住し、日本美術院の展覧会(院展)に出品を続け、主にわが秋田の風景を、ほほえみ強く描き切った、たいまげな作家と言えましょう。展示する作品は、「雪中十

### 俳句

#### 9月例会

いわたて 湊俳句会

9月8日(火)の晩に開催。兼題「九月」(夜露)一席題「秋場所」ほか俳句8句出。

佐々木 静人

海鳴りのよる月日の九月かな  
人形の目が起きている夜長かな  
手付つづり九月初かな

朝顔に留守居たのぞ診察日  
秋元 貞江

草の花白く全てはすれり  
秋風繰り返すわが老二人

初風を呼吸に切替える  
晩年は遊んで候夜長かな

九ノ月の風吹き抜ける奥座敷  
生面の色なき風を深く吸ふ

長き夜に指打る加齢の中  
里あかりよりわく顔の夜長妻

岸壁の波は九月の音に寄す  
思ひ出のメロデー聞いている夜長

出陣の準備万端九月来る  
休漁明け九月初の海原る

粉ふきいもはわける今日は敗戦日  
驚きし細の腕に逢いにゆく

逝てな母が手本や梅の花

御鳴くや残る命を声しほり

何せせめ橋脚にけり長き夜

流れ来る水面の風は九月知る

長き夜の天の遠吠え深夜便

今はなき鎮守の杜の草相模

星月夜宛席に入り友の数

寝返りも幾度ならん夜長かな

樹籬の欠けて秋場所寂しかり

暮暮の軒まで風き九月かな

一瞬が尾花ゆらして五能線

菊池 みどり

長き夜に寝静まりをひもといて

玉の汗かいてふんばる大相模

登り渡る九月の海より大空を

部屋にこもつけられてをり秋の宿

輸送車の新開おす夜長かな

巡幸に錦を飾る相模取り

影鳥鳴く天に映して天高し

露草や連ねられし異国の地

下坂 池澤

草相模漫(軍配)あがりけり

女湯に若書して処暑の昼

真夏の山にのぼる朝顔は

夕月や白拍子の小腰見て

下坂 池澤

### 『まつりの日』

宮腰 喜久治

人間の日々の歴史のよう  
で、と語る作家が描く  
は、わたしたち秋田に住  
む者へ強い共感を抱かせ  
るのです。

次に信太金言(1992  
0)の作品を、見て  
だましよう。信太は、  
櫻庭と同居し旧金岡村に  
生まれ、東京美術学校で

日本画を学び、在学中に  
旧文部省主催の美術展で  
入選を果たした俊英で  
す。戦後は、福田豊四郎  
らが創設した「新美術  
会」に、そして自ら創立  
した「創画会」に出  
品し続け現在に至って  
ます。一貫して「神かへし」のうたが

いっぽう風景画を描き、  
独自の幻想的な作風が高  
く評価されています。こ  
のたびの作品は、草と森  
「秋湖」と、図版の作品  
1990年(第17回)新作  
協賛展出品作「高原」で  
す。信太が幼少のころ、  
多岐にわたる春になると  
「神かへし」のうたが

介しよう。まずは大  
原省三「座像」です。大  
原1920(1988)は、能代市に生まれ、上  
京後洋画家としてまた美  
術教育者として活躍しま  
した。そして1990年  
に能代市制50周年記念特  
別賞を受賞したことは、  
多くの能代市民の記憶に  
残るものと願います。

「座像」に描かれた人物  
は、導きの一点を見つめ  
るまなざしや膝においた  
大きな手などから人間の  
存在感が強く感じられる  
とともに、不思議な魅力  
をたたえています。

### 文化短信

「玫瑰」10月号を発行

能代短歌会

能代短歌会「玫瑰」  
10月号を発行した。14頁、  
500円。問い合わせは  
同会(能代市本柳17の5  
伊東さん)へ。

最後に宮腰喜久治(1928-2004)の  
「まつりの日」。宮腰は能  
代市生まれ、戦後から  
主に「科会」で活躍してき  
た。これは、戦後の記憶に  
新しいひとひら。

### 秋の詩の会

秋のなかで

森岡 怜子

工夫と知恵に絡む

## モデルハウス

ポンポコ山  
木炭&ひばり  
電磁波吸収  
豊富に使う

## 「ルミエール」最後の内覧会

10月6日(土)7日(日)  
AM10:00~PM5:00

アトリエ リーフ

## Atelier Leaf

## 花の集い

2007 秋  
10月6日(土) AM10:00~PM6:00  
10月7日(日) AM9:30~PM5:30



